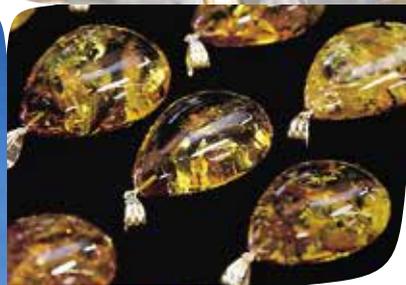


# 未来を 切り拓く 企業に なる。

企業の力が地域の未来を創る！

地域未来投資促進法紹介ガイドブック（県北・沿岸版）



## 地域資源を生かした 県北・沿岸地域の産業振興に向けて

岩手県の県北・沿岸地域は、東北新幹線や宮古～室蘭間のフェリー航路に加え、三陸沿岸道路や内陸と沿岸を結ぶ横断道路などの新たな交通ネットワークの整備が進んでおり、来年度には、三陸地域全体を会場とする総合的な防災復興行事である三陸防災復興プロジェクト2019や、ラグビーワールドカップ2019™釜石開催が予定されるなど、交流人口の拡大や経済活動の活発化への期待が高まっています。

また、豊かな自然、三陸の海に育まれた水産物や全国有数の規模を誇るプロイラーを始めとする多彩な食、伝統の漆、橋野鉄鉱山や世界遺産登録を目指す御所野遺跡などの歴史や文化、豊富な再生可能エネルギー資源など特色ある地域資源に恵まれていることから、これらを最大限に生かした産業振興が求められています。

このため、県では、平成29年7月に施行された地域未来投資促進法に基づく支援策・優遇措置や、県の支援制度なども活用し、市町村と連携を図りながら、企業を支援していきたいと考えています。

このガイドブックを通じて、国・県や市町村による支援制度等に対する理解が深まり、県北・沿岸地域の特性を生かした事業活動を行っている企業が元気に活躍することにより、地域経済の活性化につながることを期待しています。



岩手県知事

達増 拓也

### 目次 Contents

P2	巻頭言
P3	応援メッセージ
P4	地域未来投資促進法とは？
P6	一沢コンクリート工業株式会社   久慈市
P8	久慈琥珀株式会社   久慈市
P10	下館建設株式会社   久慈市
P12	株式会社ジュークス   久慈市
P14	株式会社南部美人   二戸市
P16	株式会社ひろの屋   洋野町
P18	橋爪商事株式会社   大船渡市
P20	有限会社丸和   釜石市
P22	岩手県県北広域振興局 × 株式会社ジュークス
P24	岩手県県北広域振興局 × 株式会社南部美人
P26	岩手県沿岸広域振興局 × 有限会社丸和
P28	岩手県の支援制度のご紹介
P30	ミライへ Go! 輝く岩手県県北・沿岸ガイド

## 県北・沿岸地域の企業に 期待しています

地域が自律的、持続的に豊かであるためには、企業の活躍が欠かせません。企業とそれを担う人々が活発に活動することにより、地域に富が生まれ、また、人々に働く場を提供していきます。そして、地域資源をベースに活動する企業は、農林水産業を含めた地域内の産業循環を豊かにし、地域に新たな付加価値を生み出していくのです。

地域の産業振興の目指すところは、第1に地域に「所得・価値」をもたらすこと、第2に地域に豊かな「雇用」をもたらすこと、そして、第3に人々の「暮らし」を支えることです。

これからは、国内的には「人口減少・高齢化」が進み、対外的にはアジア諸国地域の発展による「グローバル化」が基礎的条件になってきます。

これらの条件を受け止め、地域の特性を生かした新しい分野への挑戦が、地域の将来に重大な影響を与えるのです。

関 満博

1948年生まれ。一橋大学名誉教授。博士(経済学)。社会的活動として、2013年に地域経済に関する有識者懇談会委員に就任。代表作『東日本大震災と地域産業復興 Ⅰ～Ⅴ』(シリーズ完結)のほか、『地域産業の「現場」を行く 1～10集』、『6次産業化と中山間地域』、『「地方創生」時代の中小都市の挑戦:産業集積の先駆モデル・岩手県北上市の現場から』など編著書多数。



一橋大学名誉教授

関 満博



# 地域未来投資促進法とは？

地域の特性を生かした、新たな成長分野に挑戦する企業の皆さんを支援する制度です！

「企業立地の促進等による地域における産業集積の形成及び活性化に関する法律」(通称:企業立地促進法)が改正され、「地域経済牽引事業の促進による地域の成長発展の基盤強化に関する法律」(通称:地域未来投資促進法)が、平成29年7月31日に施行されました。同法は、地域の特性を生かして高い付加価値を創出し、地域の事業者に対する相当の経済的効果を及ぼすことにより地域経済を牽引する事業を実施する民間事業者等を支援するものです。

## 主な支援措置

経営課題に応じて、様々な支援措置があります。

### 設備投資に対する支援措置

#### ●課税の特例措置(地域未来投資促進税制) 国税

先進的な事業※1に必要な設備投資に対し、特別償却や税額控除により、設備投資を行った初年度の法人税等の負担が軽減される場合があります。(各事業100億円を限度)

対象設備	特別償却	税額控除
機械・装置・器具・部品	40%	4%
建物・附属設備・構築物	20%	2%

#### ●地方税の課税免除等 県税 市町村税

先進的な事業※1に必要な土地・家屋等の取得(取得価額の合計が1億円超※2に限る)に対し、地方税(不動産取得税・固定資産税)が一部免除される場合があります。

税目	対象	支援措置	担当窓口
不動産取得税【県税】	土地・家屋	課税免除	各広域振興局の税担当
固定資産税【市町村税】	土地・家屋・構築物	課税免除(3年間)	免除制度の有無や内容は市町村によって異なりますので、各市町村に直接お問い合わせください。

※1 地域未来投資促進法第24条における「主務大臣が定める基準」(以下の基準を全て満たすこと)に適合することにつき、国の確認が必要です。

- ① 国が設置する評価委員会において、先進的であると認められること
- ② 5年後の対象事業の売上高伸び率(%)が、0を上回り、かつ、過去5事業年度の対象事業に係る市場規模の伸び率(%) + 5%以上であること
- ③ 対象事業の減価償却資産の取得予定価額の合計額が2,000万円以上であること
- ④ 前年度の減価償却費の10%以上であること

※2 農林漁業及びその関連業種は5千万円超

### その他の支援措置(主なものを抜粋)

- 経済産業省事業との連携
- 工場立地法の緑地規制制度の緩和 ※市町村により異なる
- 特許料及び地域団体商標に係る登録料等の減免
- 農地転用許可、市街化調整区域の開発許可等に係る配慮
- 事業者から地方公共団体に対する事業環境整備の提案手続の創設
- 日本政策金融公庫による融資制度
- 地方創生推進交付金事業との連携(各自治体) など

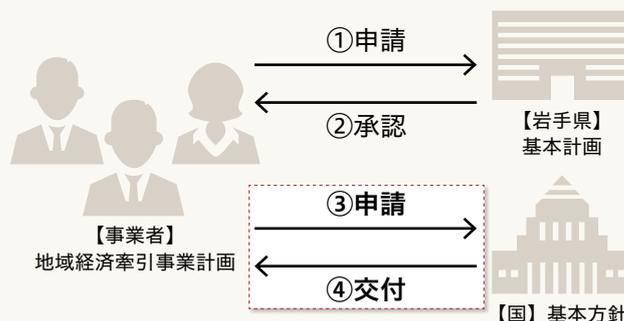
## 支援を受けるためには

これらの支援を受けるためには、岩手県の基本計画の内容に則った、「地域経済牽引事業計画」を作成し、県知事の承認を受けることが必要です。

### 手続きの流れ

- ①事業者は「地域経済牽引事業計画」を作成し、県に申請
- ②県は基本計画との整合性等を審査の上、事業計画を承認
- ③事業者は先進性等に係る「確認申請書」を作成し、国に申請
- ④国が「確認書」を交付
- ⑤各種支援措置の活用

※③及び④については「設備投資に対する支援措置」を利用する場合のみ必要です。



## 地域経済牽引事業の承認要件

岩手県では、国の基本方針に基づく基本計画を策定し、平成 29 年 9 月 29 日に国からの同意を受けました。

【計画期間：2017 年 9 月 29 日～2023 年 3 月 31 日】

【対象区域(促進区域)：岩手県全域(自然環境保全法に規定する自然環境保全地域を除く)】

岩手県の基本計画における、地域経済牽引事業の承認要件は下記の 3 つです。



### 承認要件

【要件 1：地域の特性を活用すること (①～⑥のいずれか)】

#### ①成長ものづくり分野

自動車・半導体・医薬医療機器関連産業等の集積を生かした成長ものづくり等

#### ②農林水産業・地域商社分野

農林水産品・加工品・伝統工芸品を活用した農林水産業・地域商社等

#### ③第 4 次産業革命分野

IT 関連産業の集積を活用した第 4 次産業革命

#### ④観光・スポーツ・文化・まちづくり分野

世界遺産等を活用した観光、公民連携手法を活用したまちづくり等

#### ⑤環境・エネルギー分野

木質バイオマス、地熱等を活用した環境・エネルギー

#### ⑥ヘルスケア・教育サービス分野

温泉等を活用したヘルスケア、IT を活用した教育サービス等

【要件 2：高い付加価値を創造すること】

付加価値額増加分：3,500 万円以上

【要件 3：経済的効果が見込まれること】

区域内事業者間の取引額：10% 増

### 問合せ先及び申請書の提出先

岩手県商工労働観光部商工企画室 (〒020-8570 盛岡市内丸10-1)  
電話：019-629-5525 FAX：019-626-4779  
メール：AE0001@pref.iwate.jp

岩手県商工労働観光部ものづくり自動車産業振興室  
電話：019-629-5560～5563 FAX：019-629-5569  
メール：AE0004@pref.iwate.jp

●申請書の様式等については、経済産業省及び岩手県のホームページからダウンロードできます。

経済産業省ホームページ  
[http://www.meti.go.jp/policy/sme\\_chiiki/chiikimiraitoushi.html](http://www.meti.go.jp/policy/sme_chiiki/chiikimiraitoushi.html)



岩手県ホームページ  
<http://www.pref.iwate.jp/sangyoushinkou/shinjigyoushinkou/059221.html>



※「成長ものづくり分野」の申請書については、ものづくり自動車産業振興室に提出してください。

### ◆地域未来牽引企業について

地域未来牽引企業とは、地域内外の取引や雇用の実態などを勘案し、地域経済への影響力が大きく、成長性が見込まれるとともに、地域経済のバリューチェーンの中心的な担い手、および担い手候補として経済産業省により選定された企業であり、地域経済を牽引する事業に積極的に取り組むことなどを期待されています。



地域未来牽引企業

次のページから「地域未来牽引企業」の一部を紹介します。皆さんの新たな取り組みの参考にしてください。



- ❶ 久慈市内の2工場のほか、盛岡・宮古・八戸市に営業所あり
- ❷ 鉄筋鉄鋼加工部門を社内にも持つのも同社の強み
- ❸ 配送部門として、小型移動式クレーン搭載の大型トラックを15台所有している

## 高品質なコンクリート製品の製造と 安定供給で、地域のインフラを支える

### 事業活動・技術・製品紹介

#### 製造から現場まで

#### 一貫生産体制が評価される地元の老舗企業

道路や河川、港湾などのインフラ工事において、なくてはならないのがコンクリート製品です。創業から84年を迎える一沢コンクリート工業株式会社は、久慈や二戸を中心とした岩手県東北・沿岸地域や、青森・秋田で行われる公共工事に、オリジナル製品を含むさまざまなコンクリート製品を供給しています。側溝やL型擁壁、ガードレールの基礎など主力の道路関係製品のほか、河川の護岸工事に使われるコンクリートブロックや建造物の基礎など、私たちの身近な場所で、同社の製品が暮らしの安全を守っています。

「当社の強みは、コンクリート内部のワイヤーメッシュや型枠などを作る鉄筋鉄鋼加工部門や、製品を現場まで運ぶ配送部門を独自に持っていることです。また技術開発部門

も擁し、時代のニーズやその時々<sup>よう</sup>の基準に合わせた製品の研究開発も自社内で行っています」と話すのは、一沢健治社長。製造から現場へのデリバリーまでを一貫して行えること、各種カスタムにも対応できることなど、各現場のさまざまな需要に迅速に対応できることが高く評価されています。

また近年では、国土交通省が進める「i-Construction」への対応や、社員の資格取得をサポートするなど、技術力、品質のさらなる向上にも積極的に努めています。ほかにも、社内に提案制度を設け、職場環境や業務内容の改善をボトムアップで進める仕組みを整備したり、他県のコンクリート製品又は構造物の視察や同業他社の工場見学を組み込んだ社員旅行を行うなど、社員のモチベーションアップにも取り組んでいます。「当社の理念でもある『誠実と奉仕と貢献』を踏まえ、社員には社の発展に努めてほしいと思っています」と一沢社長は話します。

会社名 一沢コンクリート工業株式会社  
 代表者 一沢 健治  
 本社・工場 岩手県久慈市長内町37-6-1  
 電話 0194-52-1811

業種 コンクリート製品製造業  
 従業員 140名  
 資本金 1,000万円  
 URL <https://www.ichisawa-con.net/>

久慈市長内町にある  
第二工場



## 地域とのかかわり

### 1日も早い復興を目指し、 業務を通じて地域に貢献

平成 23 年の東日本大震災、そして平成 28 年の台風第 10 号災害と、久慈市を含む沿岸地域は相次いで大きな自然災害に見舞われました。インフラ設備の被災に伴い、同社には大きな需要が生まれましたが、その際に心掛けたのは製品の安定供給だったといえます。

「当社工場も被災しましたが、被害の少なかった近隣の業者と連携しながら、製品の製造を進めました。災害などの緊急時において、一番に求められるのは製品の安定供給です。地元企業としてその責務を果たしたいと思い、復旧事業に取り組みました」と一沢社長。1日も早い地域の復興に向け、業務を通じて貢献したいとその熱い思いを語ります。

## 今後の展望

### 自社の擁する部門を生かし、 新たな利益獲得の可能性を掘り起こす

大震災や台風災害の復旧工事、三陸沿岸道の整備など、コンクリート製品への恒常的な需要は続いています。おそろく今がピークでしょう」と一沢社長は話します。復興事業や新規工事の減少に向けた対策として、既存設備の維持メンテナンスや保守活動を強化する取り組みを進めているほか、一沢社長は自社の持つ部門の新たな活用の道を探っています。

「当社は大型トラックを 15 台所有していますが、それを、他社や他業種と連携しながら、自社製品の輸送以外に活用できないだろうかと考えています。新しい需要を掘り起こすことで、新たな利益獲得の道を探っていきたいですね」と一沢社長。また、機械導入や業務改善で生まれた余力を使い、より付加価値のある製品開発にも取り組んでいきたいと、今後の展望を語ります。



提案制度を設けるなど、社員のモチベーションアップにも務めている

## ！ 地域未来牽引ポイント

### 循環

- ・岩手県東北・沿岸地域、北東北のさまざまな公共工事へ高品質なコンクリート製品を安定供給
- ・製造から輸送までを一貫して手がけることで、現場のニーズに迅速に対応

### 変化

- ・ボトムアップの業務改善・職場環境改善のシステムを設け、社員のモチベーションを高める
- ・同業他社との情報交換や交流を積極的に行うことで、技術力の向上を目指す

### 多様性

- ・自社が持つ各部門の新たな需要や活用方法を模索
- ・機械の導入や生産効率の向上で生まれた余力を、より付加価値の高い製品活用に生かす



### ◆地域未来トーク

『安全な暮らしを支える企業として、  
さらなる技術力向上に邁進』

代表取締役 一沢 健治

創業から 84 年、3代にわたって、地域の皆様にさまざまなコンクリート製品を活用いただいています。地域未来牽引企業として、技術力の向上や製品の安定供給はもちろん、社員の働きやすい職場環境づくりにも積極的に取り組んでいます。これからも、コンクリート製品や関連するサービスを通して、地域課題の解決に努めていきたいと思っています。



企業紹介動画



1仕上げ、検品を行い、人から人の手へ届けられる  
2琥珀で作られたアクセサリーや時計などの装飾品  
3採取した小さな琥珀は「リファインドアンバー」として再生

## 「久慈琥珀」を活用し、多彩な事業を展開 久慈地域と共生し、全国や世界へはばたく

### 事業活動・技術・製品紹介

#### アクセサリーから新しい用途への研究開発へ 新たな加工技術「リファインドアンバー」の確立

岩手県久慈市はバルト海、ドミニカ国と並ぶ世界三大琥珀産地の一つ。なかでも久慈産は約8500万年前の中生代白亜紀のもので、世界に流通している琥珀の大半が2000万年から4500万年前の新生代のものでとされていることから、久慈産の琥珀がいに希少性の高い地域資源であるかがわかります。その貴重な琥珀を採掘から加工、販売まで一貫して行っているのが久慈琥珀株式会社です。アクセサリーや文具、化粧品などさまざまな商品開発を行い、琥珀を世界に発信しています。

「1981年に地場産業育成の一環で、琥珀加工企業として誘致を受けたのが会社の始まりです。地域の大切な資源を扱うのだから、地元で根ざした企業であるべきと、独立採算制の企業としてスタートしました」と、創業の経緯について新田

久男社長は語ります。

アクセサリー販売を中心に業績を伸ばしてきた同社ですが、琥珀をアクセサリーに加工するには大きさや亀裂が入っていないことなど、さまざまな条件を満たしたものが使用することができません。

「アクセサリーに加工できる琥珀は採掘全体のわずか35%以下。採掘すればするほど商品として使うことができない琥珀が増えていくことになります。しかし、たとえ小さなかけらでも、それは大切な資源です。琥珀の有効活用のために新たな加工技術『リファインドアンバー』を開発しました」と新田社長。

採取した小さな琥珀のかけらを精練し、粉末状にしたものをインゴット(延べ板)として再生するこの技術は、東北経済産業局と東経連ビジネスセンターの支援で、新ブランド「Amberlogue(アンバーローグ)」を立ち上げることに成功しました。この他にも、リファインドアンバー技術を用いた印鑑、時計、ネームプレート、文具などの製造・販売も行っています。



## 地域とのかかわり

### 岩手県県北地域の観光の核となり、 交流人口を増やして地域活性化を目指す

大切な資源である琥珀をひとかけらも無駄にしたくないという思いから、同社は販売スタイルを直販にこだわっています。

「100年、200年と琥珀の魅力を伝えていくことが琥珀専門企業である私たちの使命です。卸業者を通せば一気に販路を広げることができますが、一過性になってしまう恐れがあります。私たちは久慈地域の財産でもある琥珀を手から手へ、大切にお渡しすることで、地域に恩返しをしたいと考えています」と、新田社長は地域とのかかわりについて語ります。

また、実際に琥珀を採取できる「採掘体験」や同社に併設された「久慈琥珀博物館」などを通し、交流人口を増やしていきたいと新田社長は言葉を続けます。

「世界的にも珍しいリアルな琥珀の採掘体験は、おかげさまで大変喜ばれ、県内外からたくさんの方が訪れています。交流人口が増えれば、食事や宿泊など、波及効果が期待されます。当社が観光の核となり、久慈地域のみならず、岩手県県北地域の魅力を全国に向けて発信することに努めています」。

## 今後の展望

### ブランディング力を高め、 久慈琥珀を世界ブランドへ

世界的にも珍しい琥珀専門企業である同社の技術や事業は、オンリーワンであり、新しいことに取り組むことができる環境が整っています。専門技術者を育成し、次世代にその技術を継承するためにも経営の安定化を図り、雇用を生み出していくことが今後の課題です。

「観光産業は投資事業です。資金を投じて新たな観光資源を作るにはリスクがありますが、既存のものを生かすことで資源を有効活用することができます。そのためには、ブランディングが重要です」と、新田社長は展望を見据えます。

産官学の連携で新たな琥珀の可能性を探求すると同時

にブランディング力を高め、「久慈琥珀」を唯一無二の世界ブランドへ発展させることを目標としています。



琥珀の仕事を通じて地域に貢献している

## ！ 地域未来牽引ポイント

### 循環

- ・「リファインドアンバー」技術で琥珀を有効活用
- ・採掘から販売までの一貫経営で、大切な地域の資源を守る

### 変化

- ・アクセサリー中心から文具、時計、化粧品など新たな事業を展開
- ・産官学と連携した共同研究の開始

### 多様性

- ・琥珀の採掘体験、博物館の運営
- ・ECサイトの運営、青森市から東京銀座まで、直営店20店舗を設置



### ◆地域未来トーク

#### 『採掘や加工技術を次世代に 継承し、地域の財産を守る』

代表取締役社長 新田 久男

当社の商品は、すべてハンドメイドです。世界でも珍しい琥珀専門企業として、採掘や加工の技術を次世代に継承をしていくことが今後の課題です。人口流出や過疎化が進む岩手県県北地域に雇用を生み出し、久慈にしかない財産である琥珀をもっと広く知ってもらえる企業を目指します。そのためにも革新を恐れず、社員一丸となって歩んでいきます。



企業紹介動画



1 復興事業「野田地区防潮堤」(提供画像)  
 2 若者の定着を目指し、地元採用を積極的に行っている  
 3 特許を取得している一酸化炭素が出ない合成木炭「ぼこたん」

## 土木建築工事を柱に雇用の安定や 人材育成を図り、地域の発展に貢献

### 事業活動・技術・製品紹介

#### 50年後、100年後の世代へつなぐ使命

#### 培った技術と経営戦略で地域の明日を築く

道路や橋梁、河川、水路工事などのインフラは、地域住民の暮らしと経済を支えています。平成元年の創業当時からさまざまな土木工事を請け負ってきた下館建設株式会社は、平成の時代とともに歩み、平成30年に、30周年を迎えました。

「わたしたちの暮らしは、さまざまな社会基盤に支えられています。それは先人たちが長い歳月をかけて築き上げてきたものです。その恩恵を50年後、100年後の世代へとつないでいくことが、建設業の使命であると考えています」と、下館康見社長は語ります。

国土交通省東北地方整備局釜石港湾事務所「久慈港

湾口地区防波堤被覆工事」や、久慈川漁業協同組合「ふ化場建設工事」など、創業以来、公共工事を中心に請け負ってきた技術は脈々と受け継がれ、東日本大震災以降、復興に全力で取り組んでいます。それは土木工事のみならず、震災によって被災した地元企業への支援も含まれています。経営に悩む企業を手助けすることで、久慈地域の産業を盛り上げるとともに、力を合わせて新たな事業を展開しています。

例えば、グループ会社である株式会社ぼこたんは、一酸化炭素が出ない合成木炭を製造販売しています。特許技術であるこの商品は、経営難から一時、製造不能となっていましたが、同社の経営ノウハウを生かし、製造を再開しました。

久慈地域の資源を生かした事業で地域に貢献し、さらなる発展を目指します。



## 地域とのかかわり

### 建設業者としての責務は地域を守ること 積極的な採用活動で、若者の地元定着を目指す

一般土木工事（道路、橋梁、河川、水路工事、上下水道、排水工事）のほか、建築設計と施工、一般住宅の新築・リフォームを事業とする同社は総合建設会社です。そのため、公共事業から民間工事まで、さまざまな案件に対応できることが同社の強みです。

「未曾有の被害に見舞われた東日本大震災では、全国的に現場技術者が不足しました。これまで培った技術や実績、さらには元請けである大手ゼネコンとの信頼関係によって、ふるさとの復興に尽力しています」と、下館社長は話します。

建設業者としての責務は地域を守ることです。被災地のインフラ復旧整備や防潮堤を造ることで、安全なまちづくりに取り組んでいます。

雇用においては、次世代を担う若者の採用を積極的に行っています。かつて、久慈地域は、地元に残りたくても産業がないことから出稼ぎの町だった時代がありました。若者の流出を防ぐためには、魅力ある会社づくりが大切です。雇用の受け皿になるため、下館建設としてはもちろん、グループ会社も含めて企業成長を図り、若い世代が地元で定着できるよう努めています。

## 今後の展望

### 地元企業と協力して地域社会に貢献

現在、公共事業は縮小傾向にあり、スクラップ&ビルドの時代から、コンクリート建造物を補修し、長寿命化を図ることが建設業界全体の大きなテーマとなっています。今後は補修技術を習得するとともに、民間企業の工事受注、さらには一般建築部門も視野に入れ、さらなる発展を目指します。

また、6次産業化の方向で「そば」の栽培から加工・販売までを行う計画を立てています。休耕田を活用して生産されたそばを、地産地消レストランという場において提供します。そば粉と他の地場産品との組み合わせによる新商品の

開発を行うことで、広域圏内における一次産業を牽引していこうと考えています。過疎化や高齢化が進む久慈地域は、深刻な後継者問題を抱えていますが、そうした現状を踏まえた上で地域未来牽引企業として何ができるのか、地元企業と力を合わせて熟考し、産業の創出に取り組んでいきます。



社員一丸となって復興および、久慈地域の発展に尽力し、新たな事業に挑戦中

## ！ 地域未来牽引ポイント

### 循環

- ・道路、橋梁、河川などの生活インフラの施工
- ・経営困難に陥った企業を傘下に迎え入れ、産業と雇用の安定化を展開

### 変化

- ・公共事業から民間工事、一般建築と業務拡大を図る
- ・コンクリート建造物の補修技術を習得

### 多様性

- ・合成木炭「ぼこたん」の販売
- ・地域発展のために、地場の産直や林業を支援

## ◆地域未来トーク



### 『土木建築を通じて 今後も地域を支えたい』

代表取締役 下館 康見

東日本大震災の影響を大きく受けた久慈地域は、新たな街づくりの対応や次の時代への移り変わり、さらには暮らしの豊かさのありかたも考えていかなければなりません。土木建築を通じて地域の発展に寄与してきた当社は、今後、高齢化や後継者問題に真摯に向き合う必要があります。当社のノウハウを生かせる新たな技術の開発、市場開拓をすることで、雇用促進や地域を盛り上げていきたいと考えています。



企業紹介動画



1 ゲーム機の筐体組立をメインに行っている待浜工場  
 2 携帯電話のサンプルディスプレイ「モックアップ」の組立から事業はスタート  
 3 自社技術の確立や、受託開発にも力を注いでいる

## 時代の変化とニーズに素早く対応し、 社会に必要とされる企業を目指す

### 事業活動・技術・製品紹介

#### こだわりのないことがこだわり

#### あくなき探究心が生み出す自由自在な事業展開

製造業には、さまざまな分野があり、その多くは専門分野を設けて受注、製造をしています。株式会社ジュークスは専門分野以外の相談があった際に、「どうすれば作ることができるか」という観点で、果敢に新規事業へ取り組んでいます。創業10年目を迎えた同社は、携帯電話のディスプレイサンプルであるモックアップの製造からスタートし、現在は実機の完成組立・検査のほか、医療機器や産業機器、アミューズメント施設で使われるゲーム機器の筐体組立など、多品種の製造を行っています。

「家電や電子機器の進化は日進月歩です。同じものしか作ることができないようでは時代に取り残されてしまいます。常に時代を見据え、作るためにはどんな技術、知識が必要か

を検討します」と、自身も技術者である城内治社長が語ります。

一見、畑違いと思われる仕事でも、請け負うことを前提で検討を重ねるのが同社の営業スタイルです。仕事の内容を分解して自社でできること、できないことを判断し、できない部分は知識や技術を持った人材に協力を依頼します。それを可能とするのは、経験豊富な技術者たちのたゆみないチャレンジ精神にあります。

「創業10年と若い企業ですが、社員はベテランの技術者が多いことが当社の強みです。さまざまな電子部品の組み立てに携わってきた社員が多いため、新しい事業にもそれまでの経験を生かすことができます。また、根っからのものづくり集団なので、難しいことにこそチャレンジしたい気持ちが強いと言えます」と、城内社長は話します。

同社の特徴は「こだわりのないことがこだわり」。タイトな納期にも可能な限り対応し、企業としての信頼と付加価値を高めています。



## 地域とのかかわり

### 地域の雇用の場を確保し、人材の流出を防ぐ Uターン希望者も積極的に採用

城内社長が起業をしたきっかけは、かつての同僚や仲間たちが再就職の場を探していたことに起因します。ちょうど同じ頃、退職した企業が請け負っていた業務を引き継いでほしいと相談を受けたことも起業の後押しになりました。

「起業を決意したのは、大幅なリストラによって職を失った仲間たちを救いたいという思いからでした。創業時のメンバーは19人。それがジュークスの社名の由来です」と、起業した当時を振り返ります。

地域の雇用確保に尽力する同社は、Uターン希望者も積極的に採用しています。その理由は、高専出身者や院卒者がその力を発揮できる場をつくり、優秀な人材の流出に歯止めをかけたいという思いがあるからです。そのひとつが岩手大学との連携の下、取り組んでいる燃料電池の低白金化触媒の共同研究です。石油などの枯渇性資源から水素を使う燃料電池へと移行しつつある時代に、燃料電池にかかせない低白金化触媒の低コスト化は重要なミッションになります。この事業が若者たちの地元定着の一端になるよう、商品化に向けて取り組んでいます。

## 今後の展望

### 社員の待遇、福利厚生で県内ナンバーワンを目指し、地域の活性化に努める

少子高齢化や人口減少は、久慈地域が抱える大きな課題です。若者たちが、働く場所を求めて県外に就職することがその原因のひとつです。ジュークスは地域未来牽引企業として新規事業に積極的に取り組み、雇用の安定化を図ることで、若者が安心して働ける場を作ることを目標としています。

「私の勝手な久慈市の人口推計（出生・死亡・転入転出の統計によると）では、90年後に久慈市の人口が計算上ゼロになると思われます。地域未来牽引企業として技術と生産性の向上に組み込み、地域雇用の拡大につなげていくよう努

めてまいります」と、城内社長は語ります。

雇用の確保は会社の使命です。経営が苦境に立った時も雇用を減らすことがなかった同社は、社員の待遇と福利厚生で県内ナンバーワンを目指しています。



雇用の確保は会社の使命と考え、地域雇用を積極的に行っている

## ！ 地域未来牽引ポイント

### 循環

- ・社員の待遇と福利厚生で県内ナンバーワンを目指す
- ・雇用の安定化を図る

### 変化

- ・モックアップの製造から実機の製造、組み立てへ
- ・多品目製造企業への転換

### 多様性

- ・岩手大学との共同研究で燃料電池の低白金化触媒の商品化に着手
- ・多種多様な事業展開



### ◆地域未来トーク

『地域未来牽引企業として、若者が「働きたい」と思える会社づくりを』

代表取締役社長 城内 治

経営の安定化とさらなる発展を目指すためには、時代の変化やニーズに対応することが重要です。これまで培った技術を生かしたものづくりのプロ集団を目指し、地域雇用の受け皿になりたいと考えています。地域に働きたいと思える会社があることは、人口流出を防ぐことに繋がり、それはやがて子どもたちの未来を守ることにもなります。地域未来牽引企業として、地域に根ざした会社づくりを、社員一丸となって取り組んでいきます。



企業紹介動画



1 素早い動きで蒸し上がった酒米を専用スコップで掘り起こす

2 蔵に並ぶ巨大なタンクの中では、\*もろみ\*が発酵している

3 右から2番目の「南部美人 特別純米酒」は、2017年のインターナショナルワインチャレンジ(IWC)で「チャンピオンサケ」を受賞

## 「世界一」の酒を携え、世界に向けて 日本酒と地域の魅力をアピール

### 事業活動・技術・製品紹介

#### 岩手の大地と南部杜氏の技が生み出す、 世界に認められた酒造り

明治26年から、二戸の地で酒造りを続ける株式会社南部美人。その社名には、「南部の地で、美しく飲みやすい、きれいな酒を作りたい」という思いが込められています。

原料は、二戸地域を中心とした岩手県産の米と、蔵の入口にある井戸からこんこんと湧き出る折爪馬仙峡の伏流水。岩手の米と水、二戸の気候風土、そして南部杜氏の技が、数々の銘酒を生み出してきました。

普通酒から純米酒、大吟醸、発泡性のスパークリング日本酒、日本酒と果実だけで仕込んだ糖類無添加のリキュールまで、その商品数は100種にも及びます。南部杜氏の伝統の技を継承しつつ研究開発を重ね、新技術の導入にも積極的に取り組むことで、時代のニーズに合わせた多彩

な味わいを世に送り出してきました。

また同社は、海外への日本酒の普及や販路構築にいち早く着手したことで知られています。南部美人5代目の久慈浩介社長が世界各地を訪れては、日本酒の魅力や楽しみ方を多くの海外の人たちに伝えてきました。その地道な努力が実を結び、今では海外の多くのレストランで南部美人の日本酒が提供されています。

2017年には、世界最大のワインコンテストであるインターナショナルワインチャレンジ(IWC)の日本酒部門で、「南部美人 特別純米酒」が「チャンピオンサケ」を受賞。名実ともに「世界一の日本酒」の称号を手に入れました。さらに2018年には、SAKE COMPETITION2018において、「南部美人 純米大吟醸」と「あわさけスパークリング」がそれぞれの部門で1位を獲得。南部美人の酒は、国内のみならず世界で評価されています。



●本社蔵のほか、同市内に馬仙峡蔵あり

## 地域とのかかわり

### 地元企業としての使命感を胸に、 地域活性化にさまざまな側面から貢献

「地元を根を張る企業として、地域活性化への取り組みは使命だといえます」と話すのは、工場長の小野壽一さん。同社は、国内外で行われるイベントに積極的に参加し、自社製品はもちろん、浄法寺塗や地域の食といった二戸地域の魅力、歴史や文化のすばらしさも合わせてアピールしてきました。また、インバウンドを含めた多くの観光客を県北エリアに呼び込むため、体験型観光「酒蔵ツーリズム」を構想しています。その実現に向け、酒蔵の大規模な改修も予定しています。

このほか、二戸市内の小中学校で授業を行い、子どもたちの職場体験を受け入れるなど、地域内外に向けて、酒造りや県北エリアの魅力発信に精力的に取り組んでいます。

## 今後の展望

### 独自の「いわて型テロワール」で、 二戸エリアに観光客を誘致

同社は、地域経済牽引事業計画のテーマに「いわて型テロワールによる地方創生プロジェクト」を掲げています。酒の原料となる米や水を生み出す気候や風土などを指す従来の意味に加え、漆器（浄法寺塗）や食といった二戸地域独自のポイントをプラスした「いわて型テロワール」としてアピールすることで、国内外における新たな日本酒ファンの獲得と、インバウンドを含む二戸エリアへの観光客誘致につなげたいと考えています。

そこで久慈社長が重要視しているのが、情報拡散力の高いインスタグラムなどのSNSの有効活用。体験型観光「酒蔵ツーリズム」に写真映えのする演出を施したり、見学コースである酒蔵や田んぼにフリー Wi-Fi を整備して情報発信しやすい環境を整えるなど、時代に合わせた形で、全世界に向けての情報発信に力を入れています。



酒造りのピークは12～2月。農閑期のお母さんたちの姿も

## ！ 地域未来牽引ポイント

### 循環

- ・地域の米と水、南部杜氏の伝統の技で高品質な日本酒を製造
- ・新技術や新製法を積極的に取り入れることで、時代や消費者のニーズに合わせた製品を開発

### 変化

- ・世界的権威のあるコンテストで「世界一の日本酒」の称号を受賞
- ・酒蔵を観光拠点とした地域活性化プロジェクトに取り組む

### 多様性

- ・海外への販路拡大、日本酒の魅力発信に積極的に取り組む
- ・SNS を使った情報発信を有効に活用

## ◆地域未来トーク



### 『希望の存在になるため、 全力で取り組んでいきたい』

代表取締役社長 久慈 浩介

私は、過疎化していくこの小さな町の、明るい希望になりたいんです。それこそが酒蔵の使命だと思っています。酒、米、器、食、文化…たくさんの方々が持つこの地域に、日本中、そして世界中からたくさんの方々を呼び寄せたいと思っています。地域未来牽引企業という力を使い、仲間とともに新しい県北エリアを作りたいと考えています。



企業紹介動画



- 1 製品はひとつひとつ手作業でチェックを行う
- 2 企業の実績や製品が評価され、数々の表彰を受けている
- 3 添加物を一切使用せずに加工されている自社商品

## 地域と水産業の未来を切り拓き、 北三陸の食を世界へ

### 事業活動・技術・製品紹介

#### 革新的なアイデアから生まれた「ウニ牧場」で、 ウニの安定供給化を目指す

古くから漁業が盛んな岩手県最北端、北三陸に位置する洋野町は、ウニやワカメ、アワビなど天然の水産資源に恵まれた地域です。株式会社ひろの屋は、この豊富な天然資源を革新的なアイデアや技術によって北三陸の食を国内外に発信しています。

「波が荒い外洋に面した洋野町は漁が天候に影響されやすく、漁獲量が安定しないという問題がありました。そこで、当時のまちの人たちが、安定したウニの生産のため、浅瀬に十数 km に渡って広がっている岩盤に深さ 1 m ほどの溝を掘り、ウニのエサとなる天然コンブを増殖させてウニの生息地を作りました。これが、世界には類を見ない「ウニ牧場」として受け継がれています」と下学坪社長は話します。

この斬新な栽培漁業の確立により、いまでは良質なウニが安定的に供給できるようになりました。この成功を受け、2013 年には地元の生産者、漁業協同組合、水産加工会社などと協力して、「北三陸世界ブランドプロジェクト実行委員会」を発足し、北三陸の高品質な水産物を日本、そして世界に発信する取り組みをスタートしました。

### 地域とのかかわり

#### 「稼げる漁業」を確立し、産業と地域雇用を創出

洋野町には世界に誇れる水産資源が豊富にあるにもかかわらず、販路を見出せず、後継者も育たないことから、町は長く衰退を続け疲弊していました。東日本大震災による津波の被害により、もともと抱えていたこれらの課題がさらに加速し、このままでは地方消滅の危機は免れないと下学坪

会社名	株式会社ひろの屋	業種	水産食料品製造業・水産物卸売業
代表者	下苧坪 之典	従業員	20名
本社	岩手県九戸郡洋野町種市22-131-18	資本金	300万円
電話	0194-65-2408	URL	http://hirono-ya.com/

海の近くに建っている、  
洋野町種市の本社社屋



坪社長は奮起し、事業を再開します。

「創業1年目のまさにこれからという時に震災で何もなくなってしまうましたが、多くの人の後押しを受けて早期に復興することができました。加工設備も新設し、今後はウニをはじめとした洋野町の水産品を、多くの人たちに味わってもらいたいと思っています。そうすることで地元で産業を創出し、雇用につなげていきたいと考えています」と、下苧坪社長は地域とのかかわりについて語ります。

繊細なウニを加工するには、ワタ抜きや身を崩さない剥き方など熟練の技が必要とされます。それらの加工技術もまた、大切な財産です。そうした技術の継承を行いながら、ひろの屋は「稼げる漁業」を目指しています。

2018年10月1日には、新会社「株式会社北三陸ファクトリー」を設立しました。北三陸ブランドとして地域の特産品を発信し、漁業に携わる全ての人とともに、地域に発展をもたらすことに尽力しています。

## 今後の展望

### 水産ベンチャーのパイオニアとして、 北三陸の特産品を世界ブランドに

良質な水産資源のほか、しいたけなどの農産物も特産品である北三陸ですが、全国的に見ると、その存在はあまり知られていません。産業がないと焦りながらも、発信の方法や売り方がわからないことが大きな問題と下苧坪社長は語ります。

「ブランディングが下手と言えばそれまでですが、生産者の中にはこのままでも仕方がないと、諦めてしまっているところも少なからずあるように感じます。地元の人間だけでやっていると、保守的になってしまう傾向にあるため、株式会社日本人材機構と連携して外部からプロデューサーを招き入れ、ブランディングや経営戦略を行っています」と、下苧坪社長は企業の先を見据えています。

日本経済の最前線で手腕を振るっていた人が、ひろの屋のやり方をどう思うかを真摯に受け止め、改善、改革することで、地域全体の利益につながると考える同社は、その

柔軟な発想力と創造力を武器に、世界ブランド化を進めています。水産ベンチャーのパイオニアとして成功モデルとなり、地域と水産業の未来を切り拓くことが同社の目標です。



生産者と消費者をつなぎたいという気持ちが同社の強み

## ！ 地域未来牽引ポイント

### 循環

- ・生産者の自立促進と雇用の創出
- ・水産資源の有効活用
- ・地域の特産品を正しい価格で流通

### 変化

- ・地域の水産資源をブランディング化
- ・「稼げる漁業」を確立し、生産者に誇りと自信を取り戻す

### 多様性

- ・北三陸の食を世界ブランドに。首都圏市場、海外市場への展開
- ・天然資源にこだわった事業開発・商品開発

## ◆地域未来トーク



### 『生産者こそが 街を背負っていくリーダーに』

代表取締役 下苧坪 之典

これまで、北三陸の特産品は、地域で消費する「地産地消」でした。それだけでは地域の魅力を国内外に発信することはできません。全国の百貨店や海外に自分たちの生産物が正しい価値をもって流通することで、生産者に自信と誇りを取り戻し、自ら発信する力をつけてほしいと願っています。その姿はやがて、次世代を担う子どもたちや若者たちへと継承されていくはず です。



企業紹介動画



1 あらゆる状況に応えられるよう、在庫を取りそろえた本社倉庫  
 2 共に働く社員の幸せと、働き甲斐のある企業を目指す  
 3 本店・金物機材センターでは小ロット販売も行っている

# より良い商品を必要な時に、必要な場所へ 物流の担い手として人が集う街を創造

## 事業活動・技術・製品紹介

### 手から手へ、心から心へ

### 地域社会に貢献する企業を目指して

昭和3年に金物船具商として開業した橋爪商事株式会社は、創業以来「信用は無形の資本」の精神をもとに歩んできました。現在は建設資材や工業資材の総合商社として、地域社会へ貢献できる企業を目指しています。

「建設資材を扱うようになったのは、昭和35年に岩手県沿岸地域を襲ったチリ地震津波がきっかけです。壊滅的な被害によって建設資材が不足し、建設関係者の方々から鉄鋼や土木関係の資材を用意してほしいとの要望に対応したことが建設資材の取り扱いにつながりました」と、橋爪博志社長は語ります。

同社の営業品目は、鉄鋼製品、土木製品、セメント、

住宅資材、施工用具、工業薬品、事務用機器など多岐に渡ります。橋爪商事が考える卸売業とは、注文を受け、納品をすることだけではありません。用途に応じて最適な商品が必要な時に、必要な場所へ納めることです。

「資材を仕入れる際には、メーカーが投じた技術や工夫などを積極的に学び、商品知識を得ることを徹底しています。それは、社会のために使命を持って施工にあたっている施工業者のお役に立てるよう、メーカーに代わって製品を説明する責務があるからです。わたしたちはメーカーと施工業者、さらには完成した建造物を利用する地域住民にとっての架け橋となる企業でありたいと考えています」と、同社の役割について気持ちを高めます。

インターネットの普及により、ありとあらゆる商品を手軽に購入できる時代だからこそ、同社は手から手へ、心から心へと商品を届けることを大切にしています。



## 地域とのかかわり

### 『信用は無形の資本』地域の信頼を糧に

建設現場は天候や工事の内容、進捗状況により、ひとつとして同じものはありません。そのため同社では、土木施工管理技士、建築施工管理技士の資格を持つ社員を育成し、状況に応じて最良・最適な資材を的確に判断することを心がけています。また、工事に必要な材料や道具、工業用薬品を在庫として取りそろえ、お客様のニーズに素早く対応できる体制を整えています。

「わたしたちが掲げる『信用は無形の資本』という理念は、納期や支払いを厳守することはもちろん、得意先や仕入先と共に信頼関係を積み重ね、次世代に誇れる仕事をするという思いが込められています。東日本大震災で深く傷ついたふるさとの復興に向け、社員一丸となって取り組み、地域のみなさまに寄り添う企業を目指します」と、橋爪社長は笑顔で語ります。

社員のほとんどが気仙管内出身者の同社は、地元雇用を積極的に行い、地域に根ざした会社づくりを行っています。ここに仕事がある、働きたい会社があると、未来を担う若者たちに希望を与えることもまた、橋爪商事の使命と言えます。

## 今後の展望

### 郷土形成に資する企業への発展を目指して、地域を盛り上げることが恩返し

甚大な被害に見舞われた東日本大震災において、同社は本社及び支店、関連会社が壊滅的な被害に遭いました。現在、復興に向け、着実に前に進んでいるのは全国からの支援によるものです。恩返しのためにも企業として地域を盛り上げていく必要があります。そこで同社が目指すのは、郷土形成に資する企業への発展です。震災以降、「街にこんな課題があるのだけれど」といった地域住民の声や、「新商品を開発したが、どこに営業をかければよいだろうか」という企業からの相談など、同社にはさまざまな声が集まって

います。それらをうまくマッチングさせ、地域の課題解決にも取り組んで行くことが今後の課題であり、橋爪商事の目標です。



社員の大半は気仙管内出身。地域に根ざした会社づくりを行っている

## ！ 地域未来牽引ポイント

### 循環

- ・用途に応じて最適な商品を必要な時に、必要な場所へ納める
- ・土木施工管理技士、建築施工管理技士の資格を持つ社員を育成

### 変化

- ・金物船具業から建設資材の総合商社へ
- ・郷土形成に資する企業を目指す

### 多様性

- ・地域が抱える問題解決への取り組み
- ・企業間のマッチングを提案



## ◆地域未来トーク

### 『地域と社会、企業と企業の架け橋として』

代表取締役社長 橋爪 博志

岩手県沿岸地域は、復興に向け着実に前進しています。しかしながら防潮堤や道路などはまだ建設中であり、当社の取引先であるお客様も未だ多忙な状態です。これからの課題は、復興事業が落ち着いた後のまちづくりです。当社は地場に根付いた企業として、復興事業に取り組むお客様をサポートすると共に、地域の方が暮らしやすい社会を形成する努めがあります。地域と社会、企業と企業を結ぶ架け橋として、地域を牽引していきたいですね。



企業紹介動画



1 平成30年に4月に新しく開設された釜石の新工場  
 2 電話注文で、お弁当を1つから配達してくれる  
 3 オリジナル商品の「日替わりオフィス弁当」

## 地域と消費者をお弁当でつなぐ 目指すのは「食のプラットフォーム」

### 事業活動・技術・製品紹介

#### 名店の味、地域の食材をお弁当に

#### 復興需要終了後の地域課題を解決すべくスタート

釜石・盛岡を主な拠点に、お弁当の製造・宅配事業を展開する有限会社丸和は、平成27年に「シェフズ弁当」ブランドを立ち上げました。

シェフズ弁当の最大の特徴は、その名の通り、自分の住む街にしながら他地域の名店・シェフの味をお弁当で味わえることです。現在、釜石・大船渡・盛岡を中心に約40店と提携し、各店の人気メニューや地域の食材を使ったお弁当を提供しています。

商品は400～500円の手ごろな日替わり弁当から2,000～3,000円台のものまで幅広くラインナップされ、普段のランチから会議や法事まで、さまざまなシーンで利用されています。

もともと、平成19年にスーパーマーケットとして事業をスタートさせた同社でしたが、平成23年に起きた東日本大震災をきっかけに、復興工事関係者向けの宅配弁当の注文が増えました。このため、スーパーの惣菜部門を独立させ、シェフズ弁当の前身となる弁当の製造・宅配事業に本格的に取り組み始めました。

「復興関係者向けの宅配弁当の需要はどんどん増えていきましたが、いずれ復興事業が終わればその人たちはいなくなります。また沿岸地域は人口減少も加速しており、復興事業完了後にどうやって経営を成り立たせていくのかという大きな課題がありました。それは当社だけでなく、地域の飲食店や事業者も同じ。そこで考えたのが、地域の事業者と提携したシェフズ弁当。地域の味をお弁当にして他のエリアでも味わえるようにすることで、地域の事業者の商圈拡大を図るというものでした」と小澤社長は語ります。

会社名 有限会社丸和

代表者 小澤 伸之助

本社・工場 岩手県釜石市大町1-10-6

電話 0193-22-3720

業種 食料品製造業

従業員 30名

資本金 500万円

URL <http://www.chefs-bento.com/>

釜石市大町の本社・工場。コック帽がデザインされたロゴマークが目印の配送トラック



## 地域とのかかわり

### 事業者、消費者、地域の

### 「三方よし」を目指して

「お弁当をきっかけにお店や地域の味を知り、いずれはその地域に足を運ぶ人が増えてほしい」。そんな目的のもとスタートしたシェフズ弁当ですが、そこには小澤社長の、「食を通して、地域とお客をつなぐプラットフォームになりたい」という強い思いがありました。地域の事業者にとっては自分たちの味を他エリアの人に知ってもらうために、消費者にとっては新しい味に出会う窓口として、そして地域にとってはこの地を訪れる人を増やすために、目指すのは「三方よし」の形だと小澤社長は話します。

十数社からスタートした提携事業者は今や40店にまで増え、事業者からは「他エリアからのお客が増えた」「お弁当をきっかけに来店して下さった」などの声が寄せられています。

## 今後の展望

### 利益率向上のための

### 新たなビジネスモデルを構築

同社は現在、調理工場と宅配拠点を釜石と盛岡に構えるほか、盛岡市内の2つの商業施設内で直売店を営業しています。平成30年4月には釜石に新工場を開設、盛岡の工場も今後拡大を予定しています。

「現在の大きな課題は利益の確保。今後は、地域の事業者から仕入れた食材や素材を自社で調理するオリジナル商品を増やすことで、間接費などのコストカットを進めていきたいと考えています。そのために、調理設備のさらなる充実や自社企画力の強化、人材育成などに取り組んでいく必要があります。また継続的な安定経営を実現するため、高い利益率を確保できる新たなビジネスモデルの構築も課題です」と小澤社長。目指すのは、シェフズ弁当の広域展開です。



和気あいあいとした雰囲気な社員たち

## ！ 地域未来牽引ポイント

### 循環

- ・地域の魅力を、食を通して他エリアにアピール
- ・地域の事業者の商圏拡大をサポート
- ・「事業者」「消費者」「地域」の3者にとってメリットのある事業を目指す

### 変化

- ・人口減少、利用者減少などによる地域経済の課題を解決
- ・自社製造の環境の整備、企画力を強化し、より収益率の高いビジネスモデルの再構築を目指す

### 多様性

- ・自社製造体制を強化するため、新たな人材の確保や育成に取り組む
- ・収益率の高い新たなビジネスモデルを構築し、展開エリアの拡大を目指す

## ◆地域未来トーク

### 『地域課題解決のため、地域とともに発展していきたい』



代表取締役 小澤 伸之助

シェフズ弁当は、震災復興事業終了後の地域の経済活動停滞や人口減少などに伴う地域課題を解決したいとの思いからスタートしました。今回の地域経済牽引事業計画の承認は、その将来性が評価されたのではないかと考えています。この承認によって今後受けられる各種サポートや金融機関からの融資、税制上の優遇などを有効に活用しながら、地域と共に成長していきたいと思っています。



企業紹介動画

## 企業対談 1

岩手県北広域振興局  
×  
株式会社 ジュークス



### 原点は雇用を生み出すこと 失業した仲間を 救いたい一心で起業を決意

久慈市の誘致企業の撤退により、職を失った仲間との再会が、起業を後押ししました。

南：久慈市の誘致企業 A 社（以下 A 社）の久慈工場の撤退に伴い起業されたと聞いています。そこにはどのような経緯・思いがあって、新会社を設立したのでしょうか。

城内：A 社に技術者として入社した私は、その後、海外事業部を立ち上げ、中国に駐在し、製造と営業それぞれの責任者を任されました。A 社が民事再生手続きを開始する数ヶ月前に、私は会社を退職しました。駐在時代に技術指導をしたメーカーからお誘いがあり、中国へ行く準備を始めていた時、失業手当の手続きに出向いた先で、A 社のパートとして働いていた女性と再会。「城内さん、助けて」と懇願されたのです。民事再生により、大幅なリストラによって退職を余儀なくされ、生活への不安から思わず口にした言葉だったのでしょう。時を同じくして、

後にジュークスの最初の取引先となる企業の専務とお会いし、A 社で製造していた携帯電話のディスプレイサンプルのモックアップ製造を、起業をして請け負ってほしいという相談を受けることに。それというのも、A 社が手がけていたモックアップは QCD（クオリティ・コスト・納期）のどれをとっても優れているのにもかかわらず、民事再生を申請した会社ではメーカー側のレギュレーションに触れるため、発注できずに困っていると言うのです。

南：なるほど、仕事も人材もあるというわけですね。あとは誰が会社を興すかということになります。

城内：「助けてほしい」という相談を受けた数時間後には起業を決意。これで失業した仲間を救うことができると思いました。

設立当初、同社の主要事業は、携帯電話モックアップのアセンブリでしたが、現在はスマートフォン、医療機器、太陽光関係、岩手大学との低白金触媒の研究など多種多様な事業を展開しています。

南：新規事業に果敢に取り組む経営戦略の背景にはどんな思いがあるのですか？

城内：会社員時代に駐在した中国で目の当たりにしたのは、その圧倒的な生産力です。しかし、中国では仕様やオーダー内容が変わると途端に立ち行かなくなる傾向にあります。この時の経験がジュークスの経営戦略の軸になっているんです。

南：その弱点をカバーすることが、現在、御社が行っている多品種製造につながるというわけですね。

城内：私たちにとってのものづくりとは、電子部品や情報通信



岩手県北広域振興局  
局長

南 敏幸

2019年3月に創業10年を迎える株式会社ジュークスは、常に時代のニーズを敏感に察知し、新規事業を立ち上げてきました。地域未来牽引企業に選定された企業が見据える地域の未来とは。岩手県北広域振興局局長が聞きました。

機器に限ったことではありません。例えば、食品製造の依頼が来



ゲーム機の筐体組立も行っている



株式会社ジュークス  
代表取締役社長

城内 治氏

● 待遇、福利厚生で  
● 県内 No. 1 を目指し、  
● この会社で働きたいと  
● 思ってもらえる  
● 会社づくりを

たします。この製品を作るためのプロセス、設備、技術等は何か調べます。そこで我々が持っていないものは何か？それをクリアするためには何が必要か考えます。つまり、人、もの、お金、情報をどう使うかを判断できる柔軟な発想を持っていなければ、今後、日本の製造業は生き残っていくことは難しいでしょう。そのような考えから、現在はあえて業種を絞らない多品種製造を行っています。この対応力こそが当社の強みです。

## 低白金化触媒技術の 共同研究で、 ものづくりから技術集団へ

「燃料電池の低白金化触媒」について、岩手大学と共同研究を行っている同社。この事業は「戦略的基盤技術高度化支援事業」にも採択されています。

南：「燃料電池の低白金化触媒」をはじめとした開発部の立ち上げや、他の研究開発にも取り組んでいると聞いています。

城内：多品種の製造を請け負うことで実績を重ねた当社ですが、受注製造だけでは雇用の受け皿としては実力不足。自社で技術を持つ必要があると考えるようになりました。高専や大学を卒業後、地元の久慈で働きたくても能力を生かせる会社がないため、県外に就職する人は大勢います。

南：おっしゃる通り、工学系出身者の県内定着率は2割というのが現状です。

城内：そこで、岩手大学との共同研究である、燃料電池の低白金化触媒技術に出会います。燃料電池は近い将来、石油やガスなどの枯渇燃料に変わるエネルギーとなることは明白です。即戦力となるUターン希望者を募ると同時に、光触媒技術に詳しいかつての同僚を誘い、商品化に向けた研究開発を開始したのは2014年のことです。この事業は経済産業省中小企業庁の「戦略的基盤技術高度化支援事業」にも採択されています。



燃料電池の低コスト化を実現する低白金電極触媒



経験豊富な技術者が若手社員を育成

## 「ジュークスで働きたい」 若者たちに そう思ってもらえる 企業を目指す

技術開発力の向上を目指し、地域を牽引する企業として成長していきたいと考えています。

南：久慈市で生まれ育った城内社長が考える、久慈地域の魅力・可能性についてお聞かせください。

城内：中国から久慈に戻った時、自然の美しさに心を奪われました。郷土への愛を実感するとともに、ここで仕事がしたいと改めて感じたことを鮮明に覚えています。久慈地域には勤勉で粘り強く、優秀な人材が大勢います。取引先からも従業員を褒められることが多く、経営者としてはそれが何よりの喜びです。

南：優秀な人材を定着させるために今後の展望を教えてください。

城内：魅力ある企業づくりをすることが私の使命です。雇用面はもちろんのこと、待遇、福利厚生で県内 No. 1 を目指し、ジュークスで働きたいと若者たちに思ってもらえる会社づくりに努めていきます。間もなく創業10年という、ひとつの節目を迎えます。これからの10年は、技術開発力の向上に尽力し、地域を牽引する企業として成長していきたいと考えています。

## 企業対談 2

岩手県北広域振興局  
×  
株式会社 南部美人



### ここにしかない 魅力のつまった 「いわて型テロワール」

23年前、この地に長らく続く造り酒屋の5代目蔵元に就任した久慈浩介さん。就任当初からいち早く、海外の販路に着目。世界各国を訪れ、日本酒の魅力や楽しみ方を、多くの外国人に伝えてきました。

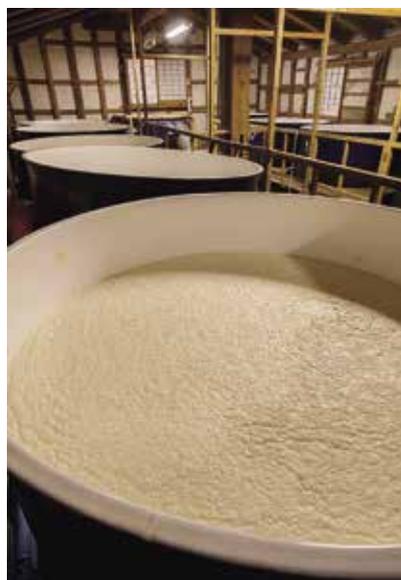
南：事業計画に「いわて型テロワール」とあります。テロワールというとワインのイメージがありますが、この概念を日本酒に取り入れたのはなぜですか？

久慈：日本酒の魅力を伝えようとするとき、日本人と外国人ではそのアピールポイントが違います。日本人なら麹菌がこれ、酵母があれ、日本酒度がそれっていえませんが、ノンジャパニーズの彼らにはわかりません。彼らの心に訴えるのは、どんな原料を使っているのか、それはどんな土地で育ったものなのか、その土地にはどんな歴史があるのか。そう、彼らが大切にするのは「テロワール」なんです。さらにここに、二戸にしかない魅力をプラスします。浄法寺塗という器、日本一の生産量を誇る鶏肉

などの地元の食。それらを合わせた、ここにしかないもの、それが「いわて型テロワール」なんです。

南：なるほど。そのいわて型テロワールを武器に、地域の魅力を世界に発信していこうというのですね。

久慈：今、インスタグラムなどSNSの情報発信力はすごいですよね。彼らは常に「私しか知らない何か」を求めています。世界一の酒がある、ここにしかないいわて型テロワールがある。二戸は、そんな「誰も知らない何か」になれる可能性を秘めていると思うんです。



地元の原料を使用している

2017年、同社の「南部美人 特別純米酒」が、世界最大のワインコンテストであるインターナショナルワインチャレンジ (IWC) の「チャンピオンサケ」を受賞。世界一の日本酒の称号を与えられました。

南：すばらしい賞を受賞されました。反響も大きかったでしょうね。

久慈：私は1997年から、日本酒の魅力を伝えるべく世界各国で試飲会などを行ってきました。でもそれは、砂漠に一滴ずつ水を落とすようなもの。日本酒の普及を図るためには、スコールを降らせな



株式会社南部美人  
代表取締役社長

久慈 浩介氏

「いわて型テロワールによる  
地方創生プロジェクト」を、  
地域経済牽引事業計画の  
テーマに掲げる南部美人。  
世界中に日本酒の魅力を発信してきた  
5代目蔵元・久慈浩介さんが目指す、  
酒蔵を拠点にした  
ユニークな地方創生計画について、  
岩手県北広域振興局  
局長が聞きました。

くてはいけない。そこで、IWCの最高責任者であったサム・ハロップ氏に日本酒の魅力を伝え、コンテストに日本酒部門を作ってほしいと訴えたんです。今回の受賞はまさにスコール。大きな反響がありました。

南：世界一の酒を生み出した理由はどこにあると思いますか？

久慈：当社は本社にある蔵のほか馬仙峡蔵があり、2つの蔵で同じ酒を造っているんです。そんな造り酒屋はほかにありません。蔵同士の切磋琢磨が、うまい酒を生み出したのだと思います。

南：久慈社長は国内外を飛び回り、



岩手県東北広域振興局  
局長

南 敏幸

「いわて型  
テロワール」で、  
東北エリアを  
盛り上げる

日本酒の普及のため精力的に活動  
されていますね。その原動力はな

んですか？

久慈：国の名前の付いた酒って、  
日本酒以外にないですよ。私は、  
国の名前のついた酒を背負って生  
きています。こんなにおいしくて、  
人を幸せにするお酒を日本のもの  
だけにしておけません。飲みたい  
という人がいれば、どこへでも  
飛んでいきます。それから、次の  
世代にできるだけいい状態で会社  
をつないでいきたいという思いも  
ありますね。

世界一の酒で、  
インバウンドを地域に  
呼び込む

事業計画の中には、体験型観光「酒  
蔵ツーリズム」が盛り込まれてい  
ます。

南：酒蔵ツーリズムは体験型観光  
の交流拠点として期待されていま  
すが、主なターゲットはどこに置  
いているのですか？

久慈：達増知事の尽力で、今、花  
巻から台湾の定期便が運行してい  
ますよね。でも皆さん、南にしか  
行かないんです（笑）。だからメ  
インターゲットは台湾の方々。皆  
さんに東北に来てもらうために、  
私たち民間もがんばろうと。蔵を

開放し、酒造りを体験したり試飲  
ができたり、買い物を楽しめる場  
所にしようと、今整備を進めてい  
ます。

南：多くの方が楽しめそうですね。

久慈：白衣の上にハッピーを着ても  
らって、頭には手ぬぐい、鳥居を  
くぐり松尾様にお参りして、酒に  
樽を入れる。ものすごくインスタ  
映えしますよね（笑）。蔵も田ん  
ぼもフリー Wi-Fi を整備して、観  
光客の皆さんに情報を拡散しても  
らうんです。



身振り手振りで体験の様子を再現する久慈社長

南：日本一の酒を携え、名実とも  
に二戸・東北・岩手県を代表し、  
地域を牽引している御社ですが、  
今後の会社づくりや地域づくり、  
事業の展望を教えてください。

久慈：南部美人の酒瓶には、必ず  
岩手県二戸市と書いてあります。  
そんな製品を造り、販売する私た  
ちは、二戸ブランドを世界に知ら  
しめる牽引者になるべきだと考え  
ています。これまではアウトバウ  
ンドに力を入れてきましたが、イン  
バウンドを呼んで初めて、地域  
のためになるんですよ。世界一  
の賞をとった酒の力でインバウ  
ンドを呼び込む。それがいちばんの  
地域貢献だと考えています。

南：地方創生、地域活性化は、官  
だけでも民だけでもできません。  
官民が協力して地域を盛り上げて  
いきたいですね。御社にはそのキー  
マンとして、情報を世界に発信し  
てほしいと思います。



世界中の人が世界一の日本酒を待ちわびている

## 企業対談 3

### 岩手県沿岸広域振興局 × 有限会社 丸和



#### 地域と消費者を、 お弁当でつなぐ

平成 19 年、小澤社長は父親の急逝により突然、9つの事業を手がけていた家業の小澤商店を継ぐことになりました。それから4年後、地域や各種団体の声により、高齢者が多く買い物に不自由していた釜石市平田地区に有限会社丸和としてスーパーマーケットをオープン。その日は奇しくも、平成 23 年に起きた東日本大震災の前日でした。

**石川：**小澤社長がお弁当にビジネスチャンスを見出したきっかけとはなんだったのでしょうか？

**小澤：**震災の後、復興工事関係者への弁当の需要が伸び、スーパーの惣菜部門を独立させ工場を新設しました。それがシェフズ弁当の前身となる宅配弁当事業の始まりでした。

**石川：**よく決断なさいましたね。

**小澤：**従業員に助けられたという感じです。食はまったくの異業種でしたから。

**石川：**そこからシェフズ弁当というビジネスモデルに行き着いたのはどうしてですか？

**小澤：**復興事業はいずれ終わるま

す。また沿岸地域は人口減少も進んでいます。その時に、どうやって経営を成り立たせていくかという課題がありました。それは当社だけでなく、地域の飲食店や事業者さんたちも同じ。自社だけでなく、地域もうるおうようなビジネスモデルが作れないかと考えました。そこで思いついたのが、地域の名店の人気メニューや食材を使ったシェフズ弁当。地域とお客様を食でつなぐというアイデアでした。

平成 27 年、シェフズ弁当は釜石でスタートします。

**石川：**どなたかのアドバイスがあったんですか？

**小澤：**アドバイスではないですが、シェフズ弁当開業の前年に参加した、東北未来創造イニシアティブが主催する「人材育成道場」の存在が大きかったかもしれないですね。6ヵ月にわたり、沿岸地域の若き経営者とともに財務から戦略、マーケティングなど幅広く学びました。シェフズ弁当に対する具体的なアイデアをそこで得たわけではないですが、震災後、地域で奮闘する仲間の姿を見て、ともに地域経済を復興させていきたいという思い、地域と一緒に発展していきたいという思いが大きくなりました。

**石川：**平成 28 年には、盛岡に進出されましたね。

**小澤：**釜石だけのビジネスでは限界があるだろうと。地域の事業者



コック帽がデザインされたロゴマーク



岩手県沿岸広域振興局  
局長

石川 義晃

地域の名店の人気メニューや  
地元産の食材を使った  
「シェフズ弁当」を手がける  
有限会社丸和。  
地域と消費者をお弁当でつなぐ  
「食のプラットフォーム」を  
目指し奮闘する  
若き経営者の思いを、  
岩手県沿岸広域振興局  
局長が聞きました。

がほしいのは今とは違う商圈。彼らにとってのメリットは、盛岡など他のエリアのお客様に味を知ってもらおうこと。そのプラットフォームにシェフズ弁当がなろうと思いました。

**石川：**事業者さんからの反応はいかがでしたか？

**小澤：**市外からお店に来てくれたお客様も増えたようで。やってよかったという言葉をいただいています。

**石川：**ロゴもおしゃれですね。配達車やユニホームにもついていて。見かけるとすぐにシェフズ弁当だってわかりますね。



有限会社丸和  
代表取締役

小澤 伸之助氏

震災から  
立ち上がるうとする  
地域の課題を、  
食をとおして  
解決したい

## 広域展開を目標に、 新たなビジネスモデルを構築

今年2月、同社は初めてのインターンとして、山口県の大学生を受け入れました。

石川：その学生さん、来春の入社が決まっているそうですね。

小澤：彼は『食を通じて世界を平和にしたい』という大志を抱く好青年でした。弊社のビジョンに共感し、インターンに遙々釜石まで来てくれました。6週間釜石で過ごし、きっとどこか有名企業に就職するんだろうなと思って見送り

ましたが、その数ヵ月後「内定をください！」と連絡があつて（笑）。

石川：小澤社長の人柄もあるとは思いますが、釜石という街も彼にとっては魅力的だったのでしょうか。

小澤：釜石という街に魅力を感じたのだと思います。震災後の釜石にはいろんな人がいます。地元の人、外から来た人、いろいろな人のつながりが魅力だと彼は言っていました。

石川：あの震災は地域にとって大変な経験でしたが、その後の復興の過程で、この場所でごんばりたいという人も出てきています。そういう方や思いを、大切にしていきたいですね。

地域経済牽引事業計画を提出し、承認を受けた同社。計画書には、自社の調理設備の拡大や、新たなビジネスモデルの構築、広域エリアへの展開を盛り込みました。

石川：とても戦略的というか、力強い印象を受けました。

小澤：当初私はスピード感をとっても大切にしていました。でも振り返ると、急ぎすぎたかなと。利益をしっかりと確保し、安定した経営を継続するためには、これまでとは違うビジネスモデルの必要性を

感じています。まずは自社製造の割合を高めて利益率を上げる。人材の確保や育成も進めていきたいですね。



企業や地域に貢献する人材を育成している

石川：振興局でも、いろいろな分野の経営のプロをご紹介できると思います。また、女性や高齢者など潜在的労働力と呼ばれる方々の「プチ勤務」の推進にも取り組んでいますので、その点でもお力になれると思います。

小澤：今後は、いかに人材を安定的に確保するかが最も重要な経営課題になってくると思います。労働力を雇用という形だけでなく、外部の様々な企業との連携を図りながら、地域に根付いた展開を固めていきたいと思っています。



様々な種類のお弁当で消費者を楽しませる

# 岩手県の支援制度のご紹介

岩手県では、企業活動に対して全国トップクラスの充実した支援制度を設けており、企業活動をあらゆる面から総合的にサポートします！

## 企業立地に対する主な支援制度

### ●「特定区域における産業の活性化に関する条例」に基づく支援

市町村長の申請に基づき、知事が指定する特定区域において、製造業の用に供する工場等を新設・増設するときは、次の支援を受けることができます。

期間	2021年3月31日までに行われる新増設
県税の減免	不動産取得税：課税免除 事業税：3年間課税免除、4年目・5年目1/2課税
大型補助	上限なし ※投資規模、新規常用雇用者数により、案件ごとに決定します。
融資	最大 <b>20</b> 億円
市町村の助成	固定資産税の課税免除や補助など ※市町村によって内容が異なります。

### ●企業立地促進資金貸付

工場等を新設・増設するときは、県の融資を受けることができます。

対象企業	新設：投資総額(投資計画が3年以上の場合は3年以内の合計額)が1億円以上 増設：投資総額1億円以上又は従業員増員10人以上
対象業種	製造業、ソフトウェア業、自然科学研究所、情報処理サービス業、エンジニアリング業など
対象経費	用地取得、造成費、工場等建設費、機械・設備取得費など
期間・利率	・10年以内(うち据置3年以内)年 <b>1.8%</b> 以内 ・15年以内(うち据置3年以内)年 <b>2.0%</b> 以内
条件	・1工場当たり投資額の80%以内、限度額 <b>3</b> 億円(特例5～20億円) ・取引金融機関所定条件あり

### ●企業立地促進奨励事業費補助

工場等を新設・増設するときは、市町村の条例等により補助を受けることができます。

※市町村により、取扱いが異なる場合があります。

※本社機能の移転・拡充を伴う新増設については、要件の緩和や補助率の加算が適用になる場合があります。

要件	立地場所：工業適地、農村産業団地、工業系用途地域、県等造成の工業団地 対象企業：製造業、ソフトウェア業、自然科学研究所ほか(県北においては協議による) 固定資産税投資額：【盛岡・県南】新設1億円以上 【その他内陸】新設5千万円以上、増設1億円以上 【県北】新設・増設5千万円以上 新規常用雇用者数：【盛岡・県南】製造業10人以上、製造業以外5人以上 【その他内陸】新設5人以上、増設10人以上 【県北】5千万円以上1億円未満：3人以上 1億円以上：5人以上
補助金額	盛岡・県南：補助対象経費の10分の1以内 その他内陸：補助対象経費の10分の3以内 県北：補助対象経費の10分の3以内
対象経費	用地取得・造成費、工場(家屋等)取得費、機械・設備取得費
その他	・補助限度額3億円 ・工事の着手前に市町村の認定を受ける必要があること

※沿岸部への工場等の新増設は、「津波・原子力災害被災地域雇用創出企業立地補助金」をご活用ください。

問い合わせ先：岩手県商工労働観光部ものづくり自動車産業振興室 電話：019-629-5560～5563

詳しくはHPで！



岩手県企業立地ガイドホームページ  
http://www2.pref.iwate.jp/~rittii/

## 県北・沿岸地域を対象とした支援制度

### ●津波・原子力災害被災地雇用創出企業立地補助金(国制度)

東日本大震災で特に大きな被害を受けた県内の沿岸12市町村に工場等を新設・増設するときは、国が実施する企業立地補助を受けることができます。

要件	対象区域：県内沿岸部 対象企業：対象区域内に対象施設を新設する民間事業者等 対象施設：工場、物流施設、試験研究施設、 コールセンター・データセンター等 雇用要件：投下固定資産額に応じた新規地元雇用が必要	※雇用要件	
		投下固定資産額	新規地元雇用者数
対象経費	用地取得・造成費、建屋建設（取得）、機械・設備取得費	5千万円以上	3人以上
補助率	中小企業：補助対象経費の2分の1以内 大企業：補助対象経費の3分の1以内	1億円以上	5人以上
その他	・応募案件は、外部審査委員による審査により、採択・不採択が決定 ・公募期間はお問合せください。 ・2020年12月末までに補助事業を完了する必要があります。	10億円以上	10人以上
		20億円以上	20人以上
		30億円以上	30人以上
		40億円以上	40人以上
		50億円以上	50人以上
		60億円以上	60人以上
		70億円以上	70人以上
		80億円以上	80人以上
		90億円以上	90人以上
		100億円以上	100人以上

問い合わせ先：みずほ情報総研株式会社 電話：03-6826-8611

### ●県北広域産業力強化促進事業費補助

県北広域において産業競争力の強化や若者等の地元定着を図るため、市町村と連携し、中小企業者が生産性向上等に資する設備導入を行う場合に要する経費の一部を補助します。 問い合わせ先：岩手県商工労働観光部ものづくり自動車産業振興室 電話：019-629-5560～5563

### ●岩手県産業再生特区による税制優遇

岩手県では、東日本大震災復興特別区域法に基づく復興特区制度を活用し、対象となる事業者が、復興特区法に基づく岩手県の指定等を受けることにより、税制優遇措置（雇用減税、設備投資減税、新規立地促進税制、開発研究用資産減税及び地方税の減税）を受けることができます。（被災事業者以外も可） 問い合わせ先：岩手県復興局産業再生課 電話：019-629-6931

### ●県北沿岸地域新商品・新サービス開発事業(公益財団法人さんりく基金)

県北・沿岸地域の復興・発展を支援するため、地域の農林水産物や観光資源などの特性を生かしたストーリー性のある新商品開発や国内外からの観光誘客促進に向けた受入態勢の整備及びサービス開発等の効果的な取組に対し助成を行います。

問い合わせ先：公益財団法人さんりく基金事務局(岩手県政策地域部地域振興室内) 電話：019-629-5212

●掲載した支援制度のほかにも、県や関係機関による多くの支援制度があります！  
岩手県地域産業支援施策活用ガイドブックで検索！  
<http://www.pref.iwate.jp/sangyoushinkou/shinjigyou/shinkou/055211.html>



## 市町村の支援制度（一部抜粋）

市町村	固定資産税の課税特例・補助	企業立地に関する補助金等	雇用に関する奨励金等	担当部署	電話番号
久慈市	○	○	○	企業立地港湾課	0194-52-2369
二戸市	○	○	○	商工観光流通課	0195-43-3213
普代村	○	○	○	農林商工課	0194-35-2115
軽米町	○	○	○	再生可能エネルギー推進室	0195-46-2111
野田村	○	○	○	産業振興課	0194-78-2926
九戸村	○	○	○	総務企画課	0195-42-2111
洋野町	○	○	○	特定政策推進室	0194-65-2102
一戸町	○	○	○	商工観光課	0195-33-2111
宮古市	○	○	○	産業支援センター	0193-68-9092
大船渡市	○	○	○	企業立地港湾課	0192-27-3111
陸前高田市	○	○	○	商工観光課	0192-54-2111
釜石市	○	○	○	企業立地課	0193-27-8423
住田町	○	○	○	農政課	0192-46-3861
大槌町	○	○	○	商工観光課	0193-42-8725
山田町	○	○	○	水産商工課	0193-82-3111
岩泉町	○	○	○	経済観光交流課	0194-22-2111
田野畑村	○	○	○	政策推進課	0194-34-2111

※各市町村ごとに様々な支援制度がありますので、詳細は各市町村までお問い合わせください。

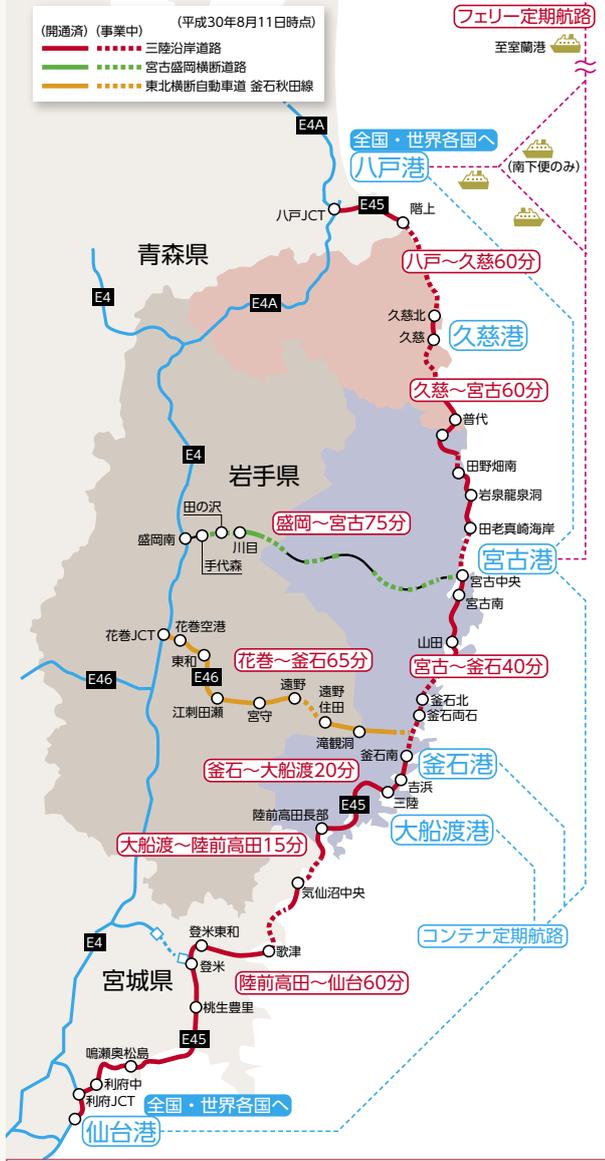
# ミライへGO! 輝く岩手県県北・沿岸ガイド

物流・交通環境が向上! 県内外とつながりやすくなります!

## ◆ 復興道路開通後の都市間所要時間

開通前 八戸⇔仙台 7時間35分  
 -3時間10分短縮↓  
 開通後 八戸⇔仙台 4時間25分

※表示している所要時間は復興道路完成後のもの



無料区間は以下のとおり  
 三陸沿岸道路 県内全線 / 宮古盛岡横断道路 全線  
 東北横断自動車道 釜石秋田線 釜石JCT(仮称)~東和IC

## ◆ 復興道路の整備!

「復興道路」とは三陸沿岸地域の縦貫軸と、内陸部と三陸沿岸地域を結ぶ横断軸の高規格幹線道路等の総称です。現在、全線開通に向けてかつてないスピードで事業が進んでいます。

復興道路の完成により、主要都市間の所要時間が大幅に短縮になるほか、物流の効率化、産業の活性化、広域観光ルートの形成など様々な波及効果が期待されています。



提供:三陸国道事務所  
 三陸沿岸道路宮古田老道路(田老真崎海岸IC~田老IC)田老岩泉道路(田老北IC~岩泉龍泉洞IC)  
 /平成30年3月21日開通

## ◆ 宮古・室蘭フェリー航路が開設!

平成30年6月22日、北海道室蘭市と宮古市を結ぶ”本県初”のフェリー航路(333.4km)が開設され、川崎近海汽船株式会社「シルバーフェリー」の「シルバークイーン」(7,005トン、定員600名、トラック69台、乗用車20台)が就航しました。この航路は、北海道と首都圏の間に新たなアクセスルートを提供するばかりでなく、岩手県と北海道の交流の動脈となり、物流や観光の面で大きな役割を果たすことが期待されています。



宮古と室蘭を結ぶフェリー

## ◆ 釜石港:国際コンテナ定期航路の開通! ガントリークレーンの導入!

復興道路の整備等を見込み、釜石港と韓国や中国を直接結ぶ外資コンテナ定期航路が平成29年11月に開通されました。

急増する釜石港のコンテナ取扱量に対応するため、岩手県では、荷役能力の高い”本県初”の「ガントリークレーン」を平成29年9月に大阪府から復興支援を受け供用開始しました。



釜石港で稼働したガントリークレーン

自然豊かで独自の文化が特徴的な岩手県県北・沿岸地域。現在、魅力ある地域づくりが進められています。「交通便の向上」「地域との連携」「豊かな暮らしや文化」など、ここでは、「ミライ」へ向かっている岩手県県北・沿岸地域の新たな魅力を紹介します。

## 生活環境も充実！魅力あふれる岩手県県北・沿岸地域！

### ◆三陸鉄道「リアス線」の全線開通！

復旧工事が進められているJR山田線(宮古・釜石間)は、復旧後(2019年3月予定)は、三陸鉄道(株)で運営移管を受けることとなっており、南・北リアス線の2つに分かれていた三陸鉄道は、久慈—盛間をリアス線で結び、第三セクター鉄道として、国内最長路線(163km)となります。

“復興の象徴”でもある三陸鉄道の全線開通により、県北・沿岸地域のますますの利便性の向上や交流人口の拡大などが期待されています。

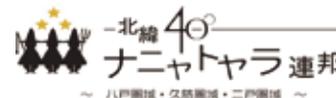


“復興の象徴”である三陸鉄道

### ◆岩手県県北地域と青森県八戸地域との連携

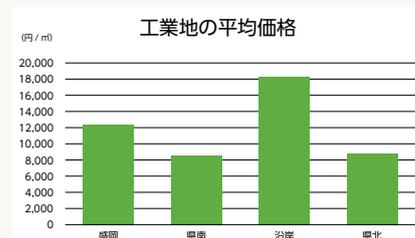
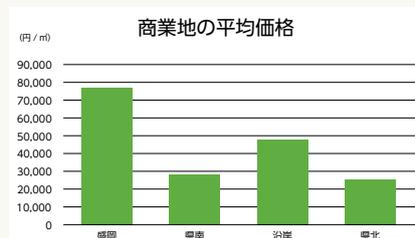
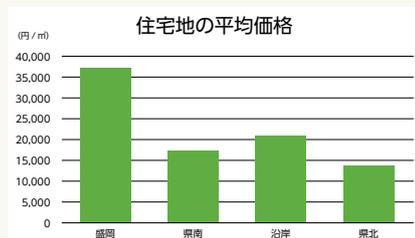
岩手県県北地域(久慈・二戸)と青森県八戸地域は歴史的にも生活圏としてもつながりが深く、八戸市・久慈市・二戸市3市と青森県三八地域県民局・岩手県県北広域振興局による「北緯40°ナニヤトヤラ連邦会議」を運営し、3圏域の振興を図っています。

また、岩手県県北地域と青森県八戸地域は学術的な交流も活発に行われており、例えば八戸工業大学は岩手県立種市高等学校と「海洋に関する連携協定」を結んでおり、海洋研究の推進に取り組んでいます。



「北緯40°ナニヤトヤラ連邦」ロゴマーク

### ◆広域振興圏別の地価比較



※岩手県「平成30年度地価調査結果：市町村別用途別平均価格」を基にした広域振興圏ごとのデータ

## 未来を拓く！沿岸地域に広がる学びの場

### ◆岩手大学「釜石キャンパス」の開設！

2017年4月、国立大学法人岩手大学の「釜石キャンパス」が釜石市平田に新たに開設されました。震災で大きな被害を受けた三陸水産産業の復興と持続的発展に寄与する人材育成の拠点が誕生し、関係者や地域は大きな期待を寄せています。



水産・復興の担い手を育む「釜石キャンパス」

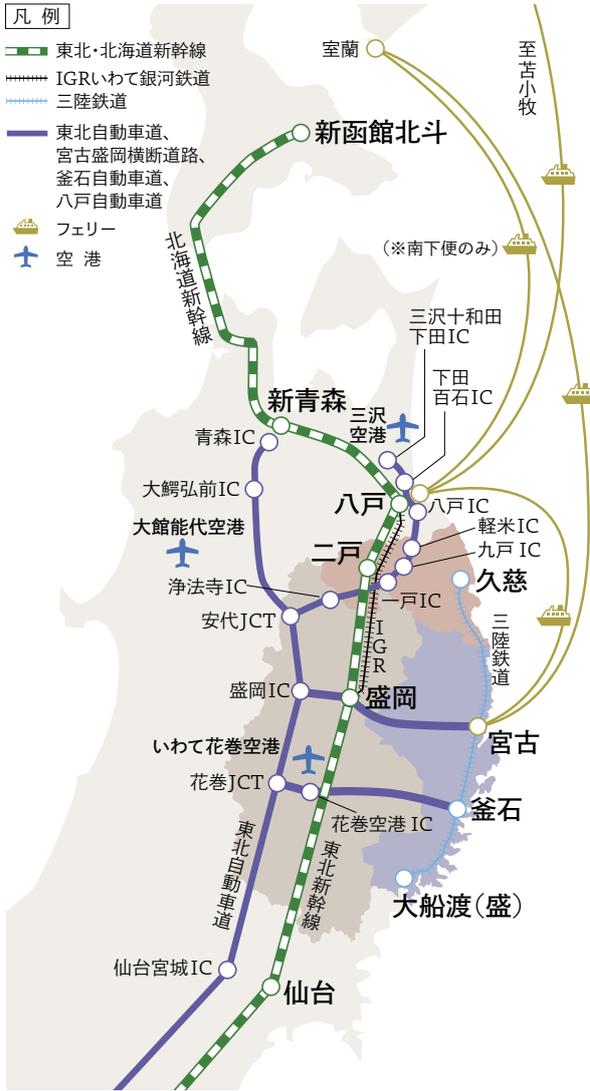
### ◆岩手大学・立教大学「陸前高田グローバルキャンパス」の開設！

2017年4月25日、陸前高田市に岩手大学と立教大学(東京)が共同運営する「陸前高田グローバルキャンパス」が開設されました。両大学は、キャンパス内にそれぞれサテライトを設置し、教育研究や幅広い交流拠点としての活用が期待されています。



愛称「たかたのゆめキャンパス」

ACCESS | 岩手県県北・沿岸地域アクセスマップ



東北新幹線				
仙台	約39分	盛岡	約25分	二戸
二戸	約40分	新青森		
東京	約2時間13分	盛岡	約11分	八戸

フェリー		
八戸港	約8時間30分	苫小牧港
宮古港	約10時間	室蘭港
八戸港	約3時間55分 (※南下便のみ)	八戸港
		約6時間40分

高速道路									
盛岡IC	安代IC	浄法寺IC	一戸IC	九戸IC	軽米IC	八戸IC	弘前IC	青森IC	八戸自動車道
	約11分	約9分	約9分	約8分	約15分	約51分			
	約40分	約1分							東北自動車道

バス	
盛岡	約2時間30分
	約2時間12分
	約2時間15分
	約2時間30分
	約3時間

JR 東日本		
盛岡	山田線	宮古
	約2時間5分(快速)	
花巻	釜石線	釜石
	約1時間36分(快速)	

IGRいわて銀河鉄道				
盛岡	約1時間2分	一戸	約5分	二戸
			約38分	八戸

(目時駅—八戸駅間は青い森鉄道になります。)

三陸鉄道						
久慈	野田玉川	普代	宮古	釜石	盛	
約22分	約19分	約57分		約49分		

(2019年3月開通予定)

編集・発行

岩手県県北広域振興局経営企画部産業振興室 ☎028-8042 岩手県久慈市八日町1-1 TEL:0194-53-4981  
 岩手県沿岸広域振興局経営企画部産業振興室 ☎026-0043 岩手県釜石市新町6-50 TEL:0193-25-2718



デジタルブックをご覧ください。  
<http://digibook.safekeeping.jp/i-kenpoku/>